

北見赤十字病院 外科系研修プログラム

(1) プログラムの名称

北見赤十字病院外科系研修プログラム（1～2年次3ヶ月）

(2) プログラムの目的と特徴

1) 目的

3ヶ月間の研修を通じ、指導医の監督のもとに入院患者の基本的診療、および治療法ならびに患者家族との接し方を学び、プライマリ・ケアに必要な基本的態度、判断力、技術、知識を習得する。可能な限り担当医として診療にあたる。

外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、頭頸部・耳鼻咽喉科、脳神経外科から選択し、希望に応じた技術を身につける。

2) 特徴

- ① 外科系の疾患を診療できる体制を整えていること。
- ② 助手として多くの手術を経験できること。
- ③ 上級医による直接的指導と指導医による客観的指導を受け適切な診療ができる。

(3) プログラム責任者

池田 淳一（第一外科部長）
菅原 修（第一整形外科部長）
藤井 暁（第一形成外科部長）
藤井 敬三（第一泌尿器科部長）
和田 哲治（耳鼻咽喉科部長）
鈴木 望（副院長・救命救急センター長）

(4) 研修目標

1) 行動目標

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの行動目標の達成に努めること。

2) 経験目標

①経験すべき診察法・検査・手技

I) 基本的診察法 卒前に習得した事項を基本とし、担当症例について以下の主要所見を正確に把握できる。場合によっては他科への診察依頼を判断できる。

- 1. 病歴の聴取（患者、家族とのコミュニケーションの能力を含む）
- 2. 全身の診察（バイタルサイン、精神状態、皮膚の観察、表在リンパ節の診察を含む）

3. 頭頸部の診察（咽頭、口腔の観察、甲状腺の触診を含む）
4. 胸部の診察（心音、呼吸音の聴取、乳房の診察を含む）
5. 腹部の診察（腹部の触診、聴診、打診、直腸診を含む）

II) 基本的検査法

1. 検尿
2. 検便
3. 血算
4. 出血、凝固時間
5. 血液型判定、交差試験
6. 血糖、電解質
7. 動脈血ガス分析
8. 心電図

III) 一般検査 適切に検査を選択、指示し結果を解釈できる。

1. 血算、血液像
2. 血液生化学検査（肝機能、腎機能、電解質、膵機能）
3. 血糖検査、糖負荷試験
4. 検便
5. 肺機能検査
6. 細菌学的検査（薬剤感受性検査を含む）
7. 細胞診、病理組織検査
8. 超音波検査（腹部、乳腺）
9. 単純エックス線検査
10. 造影 X 線検査
11. CT 検査
12. MRI 検査
13. 核医学検査
14. 内視鏡検査（上部、下部、ERCP）

IV) 基本的治療法—1 適応を決定し、実施できる。

1. 薬剤の処方（適切な投薬の選択とオーダーが出来る）
2. 輸液（適切な輸液製剤を選択でき、投与量も決められる）
3. 抗生剤の使用（適切な投与が出来る）
4. 呼吸管理（主に術前術後）
5. 循環管理（主に術前術後）
6. 中心静脈栄養法（カテーテル挿入が出来る）

7. 経管栄養法
8. 食事療法
9. 療養指導（主に術後の安静、体位、食事、入浴、排泄など）
10. クリニカルパス

V) 基本的治療法—2 必要性を判断し、適応を決定できる。

1. 外科的治療（術式選択を含む）
2. 精神的、心身医学的治療
3. 他科受診により診療の依頼

VI) 基本的手技 適応を決定し、実施出来る。

1. 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴のための静脈確保）
2. 採血法（静脈血、動脈血）
3. 導尿法
4. 浣腸
5. ガーゼ、包帯交換
6. 胃管の挿入と管理
7. 局所麻酔法
8. 滅菌消毒
9. 簡単な切開、排膿
10. 皮膚縫合
11. 包帯法
12. 外傷の処置

②経験しておくべき疾患又は病態

基本的な外科系疾患・病態を経験する。

③特定の医療現場の経験

I) 救急処置法 緊急を要する疾患、又は外傷を持つ患者に対して適切に処置し、必要に応じて専門医に依頼することが出来る。

1. バイタルサインを正しく把握する。
2. 問診、全身の診察及び検査等によって得られた情報を元にして、患者の診療を指導医又は専門医の手に委ねるために、申し送りないし移送することが出来る。
3. 血管の確保、中心静脈の挿入、気管内そうかん、心肺蘇生

II) 緩和医療 緩和病棟にて経験を積み

1. 人間的、心理的立場に立った治療

2. 疼痛対策
3. 精神的ケア
4. 家族への配慮
5. 死への対応

(5) 研修実施計画

1) 期間

1～2年次3ヶ月間

2) 研修の実施方法

① 病棟、外来研修

病棟において指導医、上級医の指導のもとに基本的な診察法、検査法、手術計画、術前管理、術後管理、患者家族への対応方法を研修する。可能な限り患者を担当できるようにする。手術では、助手として参加し、縫合、止血等の基本的な手技を体得させる。

② 救急研修

2週に1回程度指導医と全科当直見習いとして参加し、科を特定せず初期治療に必要な救急処置、検査等につき研修する。

③ カンファランス等による研修

外科系カンファランス、回診、CPC等に参加し、研修内容を充実させる。

(6) 研修の評価

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの規定に順ずる。